

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高蔵 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

(2) 本校の学力調査結果の分析

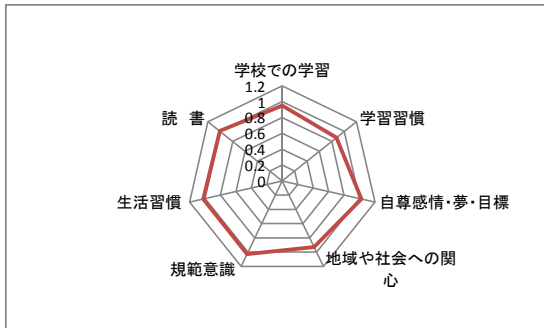
国語A	全体的な傾向や特徴など	全体的には全国平均正答率を下回っていたものの、昨年度より上昇していた。話す・聞く能力に課題があり、話し合う活動の充実に取り組む必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして詳しく書く問題については正答率が全国平均より高かった。	
	努力が必要な問題	手紙の構成を理解し、手紙の跡付けに必要な日付け、署名、宛名を選択する問題は正答率が低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率をやや下回っていたが、半分近くの問題で正答率が全国平均を上回っていた。書く能力に課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	登場人物の相関関係や心情、場面についての描写を捉える問題については正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて引用して書く問題は正答率が低く、無解答率も高かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を下回っており、基礎的・基本的な学習問題の定着に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	商を分数で表す問題や二つの数の最小公倍数を求める問題は、正答率が全国平均を上回っていた。	
	努力が必要な問題	円を使って正五角形をかく時、円の中心のまわりの角を何度ずつに分割すればよいかを書く問題は、正答率が全国平均を大きく下回っている。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回っているが、昨年度より上昇していた。数量関係や図形についての問題に課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める問題については、正答率が全国平均を上回っていた。	
	努力が必要な問題	示された式の中の数の意味を表と関連付けながら正しく解釈して記述する問題は、正答率が低く、無解答率も高かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
・	普段(月曜日～金曜日)、1日あたり60分以上勉強している児童の割合は減少している。
・	テレビ等の接触時間は減っているが、テレビゲームやスマホ・携帯を使ったゲームに3時間以上接触している児童の割合は増えている。
・	学校のきまりを守っているという児童の割合は全国平均より高く、規範意識は高い。
・	自分にはよいところがあると答えた児童の割合は高くなったが、依然として自尊感情が低い傾向にある。
・	将来の夢や希望をもっている児童の割合は、全国平均より高い。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎週水曜日の計算タイム、木曜日の読書タイム(読み聞かせ)、金曜日の音読タイムを全校一斉に実施する。 ・ 授業の中に、「話し合い活動」を効果的に取り入れるなどの授業改善を図る。 ・ 放課後の時間(週1～2回)を利用して補充学習を行い、基礎基本の定着を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校通信などで学習時間、学習内容、学習方法について、児童及び保護者の方への啓発を行う。 ・ 「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用した自主学習を推進するとともに、自学ノートを作成し、自宅での復習などに取り組ませる。 ・ 全国学力・学習状況調査の結果の概要や、課題や取組等を学校だより、学校HPで周知する。
